

# 長崎県の基盤整備事業の効果事例集（その3）

波及効果により、地域の園児、小学生が増加傾向

## 1. 雲仙市の効果事例

- ①新聞掲載（国見町八斗木小、南串山町南串第一小）・・・P1
- ②雲仙市における農地整備事業の効果事例（八斗木地区、南串山地域）・・・P2
- ③八斗木小学校説明資料・・・P3～4

## 2. 島原市の効果事例

- ①生産基盤整備により根菜類の一大産地形成（三会原地区）・・・P5～6

## 3. H29～H33 長崎県の農地基盤整備（区画整理）事業 予定位置図・・・P7

平成29年11月  
長崎県・長崎県土地改良事業団体連合会

# 地域全体で「子育て世代」応援

人口減少が続く雲仙市で、同市北部にある国見町の市立八斗木小(辰田賢治校長、55人)では、数年前から児童数が増加している。今後も増える見通しで、若手農業者ら子育て世代の「暮らしやすさ」が背景にあるようだ。

## 八斗木小など児童増加

24日、同校であった運動会。児童のほか、地元保育園から「入学予備軍」の園児も参加した。かわいい歓声につられて保護者や地域住民たちも終始笑顔。辰田校長は「兄弟も多く、地域のつながりも強い」と話す。同校区は雲仙岳の中腹に位置する農業が盛んな地域で、約280世帯約970人が暮らす。市全体の人口は10年間で約6千人減少し、約4万4千人。市内の同校育友会会長の森田康次



子どもと一緒に声援を送る保護者

雲仙市立八斗木小

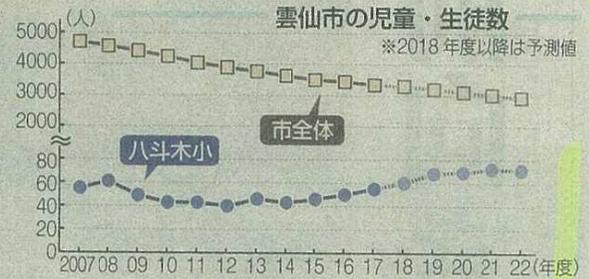
## 雲仙市 独自施策で農業者ら定住

さん(53)は「古里を離れずに実家の農業を継ぐなど、若手農業者が頑張っていることが大きい」と話す。同地区は市が数年前から農地の基盤整備を進めてきた。恵まれた農業環境を生かして、名産の「八斗木白葱」の生産や稲作などに一家で取り組み、比較的経営も安定している。同様に農地整備を進めた南串山町の山間部でも子どもの数が増えている。こちらはジャガイモ農家が多く、市立南串第一小は現在43人。来年度からは増加に転じ、5年後には70人になる見通し。

市境の両町には、市独自施策の「第2子以降も保育料無料化」も手伝って、近隣市から移住してきた子育て世代もいる。市は「二つの要因が児童増加につながったのでは」と分析する。

八斗木地区で農家を継ぎ、4人の子どもを育てる田中克臣さん(39)は「みんな親同然。畑からあいさつを交わすなど、地域全体で子どもを見守るような安心感がある」と笑顔を見せた。

(中村亮介)



# 雲仙市における農地整備事業（畑地帯担い手育成型）の効果事例【参考】

## 【八斗木地区（事例1）】

- ・八斗木地区は雲仙市国見町の中山間部に位置した畑作地帯で、雲仙ブランドの「八斗木白葱」の産地であり、大型育苗ハウスを核として、集出荷体制も確立されており、**周年出荷**が行われている。
- ・また、**八斗木白葱部会員26名全員（うち担い手14名）が、自ら品質検査や防除履歴チェックを徹底**するなど、環境保全型農業に取り組んでいる。
- ・H23年からH29年にかけて区画整理と畑かん整備を行い、**収穫機械導入等による生産コストの低減**を図るとともに、農地中間管理事業を活用し、担い手に農地を集積して規模拡大を図ったことで、地区全体の**作付け率が1.7倍、担い手の農業所得が3.4倍**に増加している。
- ・さらに、基盤整備が進むとともに、**小学校の児童数が増加**するなど、その他の波及効果も見られている。



### 八斗木地区（H23～H29）



#### 地区全体の作付け率



事業前 37.8ha/40.0ha = 94.5%  
事業後 63.0ha/38.8ha = 162.4%

#### 担い手戸当たり農業所得



担い手の経営面積  
2.52ha → 3.53ha

## 【南串山地域（事例2）】

- ・南串山地域は雲仙市南西部に位置し、畑総事業の溜水・妙見地区、鬼池地区が完成し、**担い手の農業所得が増加**している。
- ・八斗木地区と同様に、基盤整備のその他の波及効果として、**近年、小学校の児童数が増加**している。

### 溜水・妙見地区（H10～H16）



整備により担い手の**農業所得2.2倍**



担い手の経営面積  
2.60ha → 3.52ha

### 鬼池地区（H14～H20）

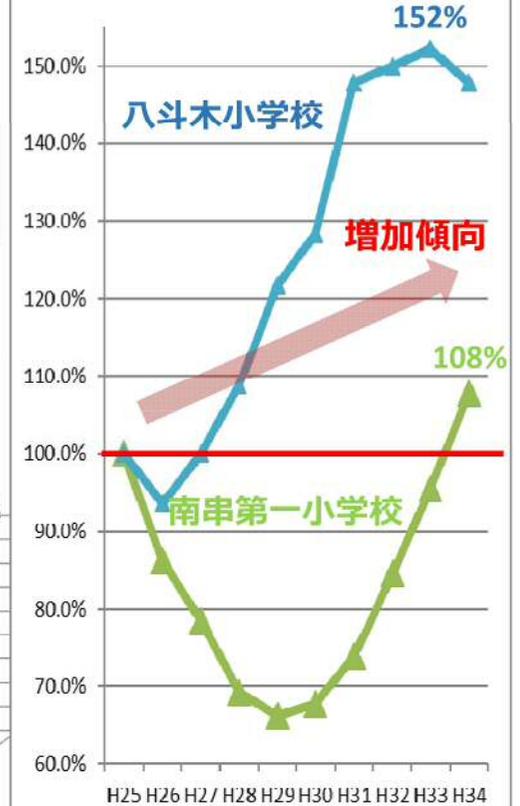


整備により担い手の**農業所得2.6倍**



担い手の経営面積  
1.85ha → 2.62ha

### 雲仙市 H25を基準年(100%) とした小学校児童数の推移



1 学校の概要

児童数 50名      職員数 12名（市嘱託職員を含む）

学級数 5（5・6年複式学級）

2 地区の概要

本校区は、雲仙岳の北部、国道251号線より約6Km山手、標高約120mを超える丘陵地帯に位置している。この地区の歴史は古く、有史前より文化の開けたところであり、百花台遺跡の石器文化は全国的にも有名である。また、小ヶ倉、魚洗川、八斗木などに縄文時代から弥生時代にかけての遺跡が点在している。

仰げば雲仙の山々、眼下には有明海を望む風光明媚で豊かな自然環境に包まれた、農業を主産業とした地域であり、白ねぎ、玉ねぎ、じゃが芋、大根、白菜、いちご等の野菜類、みかん等の果物類の栽培をはじめ、花卉園芸、造園業、酪農業も盛んである。

他地区と比較すると、現育友会35世帯における専門農家の割合が高く、会社勤務等の両親共働きの兼業農家も多い。

3世代家族が半数以上、中には4世帯同居もあり、同居ではなくても祖父母が校区内に住んでいる家庭が多い。地域住民は連帯感が強く、学校教育に対する理解がある。学校への愛着や期待は大きく、学校行事や育友会行事には多数の協力や参加がある。

3

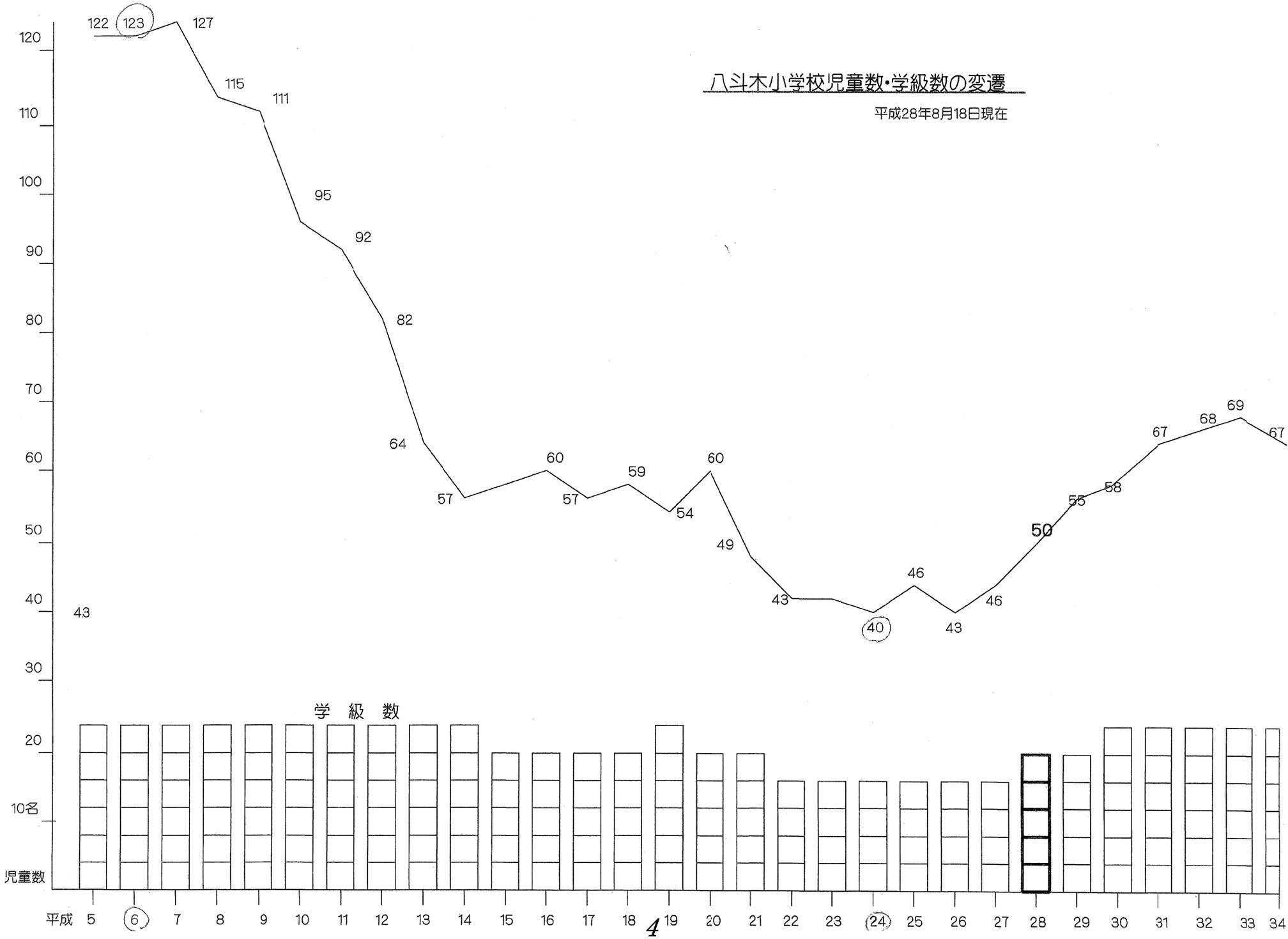
3 平成28年度以降の児童数予想

	28年	29	30	31	32	33	34
6年	8	7	7	11	7	10	13
5年	7	7	11	7	10	13	11
4年	7	11	7	10	13	11	15
3年	11	7	10	13	11	15	12
2年	7	10	13	11	15	12	8
1年	10	<sup>14</sup> 13	11	15	12	8	8
合計	50	<del>55</del> 56	58 59	67 68	68 69	69 70	67 68

5・6年複式学級は平成29年度まで。30年度より単式学級。

八斗木小学校児童数・学級数の変遷

平成28年8月18日現在



- 雲仙普賢岳の噴火による葉菜類への降灰被害により、根菜類を中心とした作付体型に変更。
- 昭和40～50年代に整備した畑かん施設の更新整備とあわせ、区画整理を行い、効率的な営農の基盤を整備。
- JAを中心に、品質向上や安定出荷に取り組み、市場からも評価の高い一大産地を形成。

## 取組前

老朽化した畑かん施設・  
不整形なほ場による営農

### 三会原第1地区

【営農規模】 49.7ha  
【作目】 にんじん 22.0ha  
だいこん 22.0ha 等

### 三会原第2地区

【営農規模】 51.0ha  
【作目】 にんじん 15.0ha  
だいこん 7.8ha  
しょうが 2.9ha  
レタス 1.8ha 等

- 昭和40年から50年代に整備した畑地かんがい施設が老朽化（負担金の問題から、区画整理は見送り）
- 不整形なほ場、狭小な耕作道
- 平成2年から平成8年に渡る雲仙普賢岳の噴火による降灰により葉菜類への被害が拡大



降灰の除去

## 取組内容

全体整備構想の作成

三会原地域全体の  
基盤整備の構想の作成

畑かん施設、区画整理

【完了地区】  
県営畑地帯総合整備事業(H14～H25)  
三会原第1地区(H14～H19) 35.5ha  
三会原第2地区(H20～H25) 34.4ha  
【継続地区】  
農業競争力強化基盤整備事業(H24～)  
三会原第3地区(H24～) 87.8ha  
三会原第4地区(H28～) 111.9ha

にんじん収穫機の導入（任意団体、個人）

・経営体育成支援事業、県単独事業、  
その他（H12頃～）

にんじん洗浄選別施設の更新

・農山漁村活性化プロジェクト交付金  
（H23～24）  
・処理能力：70 t/日

## 取組後の効果

完了地区における効率的な営農による農業所得の向上

【作付面積の増加】

### 三会原第1地区

【営農規模】 66.7ha  
【作目】  
にんじん 32.1ha  
だいこん 6.5ha  
しょうが 5.5ha  
はくさい 9.1ha 等

### 三会原第2地区

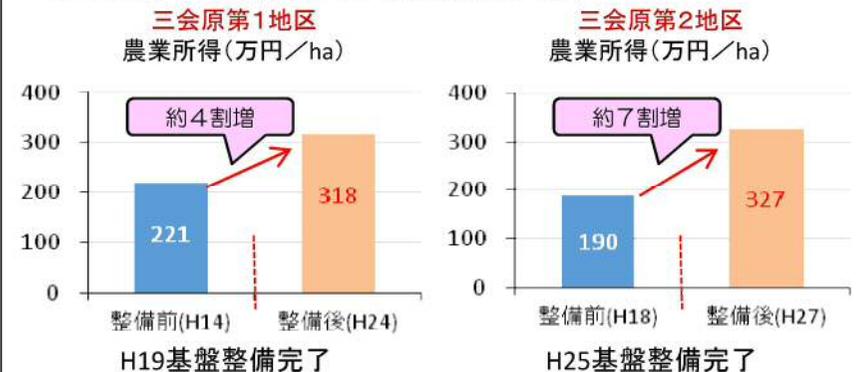
【営農規模】 66.0ha  
【作目】  
にんじん 28.8ha  
だいこん 8.9ha  
しょうが 5.4ha  
レタス 2.6ha 等

【耕地利用率の向上】

- 三会原第1地区：耕地利用率 146% → 210%
- 三会原第2地区：耕地利用率 144% → 199%

【農業所得の向上】

- 生産量の増加等により、農業所得が増加



生産基盤整備（区画整理、畑地かんがい）およびその後の取組みによる効果

## にんじんの産地化

### 【営農の省力化、出荷体制の強化】



【にんじんの散水状況】



【にんじんの収穫状況】



【にんじん洗浄状況】



【にんじん選別状況】

（JA島原雲仙北部地区）

#### ●産地規模の拡大

栽培面積 153ha (H23) ⇒ 174ha (H26) 【14%増】  
 出荷量 5,724t (H23) ⇒ 7,455t (H26) 【30%増】

#### ●担い手の確保

部会員数 124戸 (H23) ⇒ 146戸 (H27) 【1.2倍】  
 (うち後継者あり 71戸)

## その他の波及効果

### 【地域の保育園児の増加】

基盤整備によって農業経営の基盤が強化されるようになり、農業後継者に嫁ぐ女性が増加傾向となり、**園児数が一桁代**にまで減少し、存続が危ぶまれていた地域の保育所の園児が増加

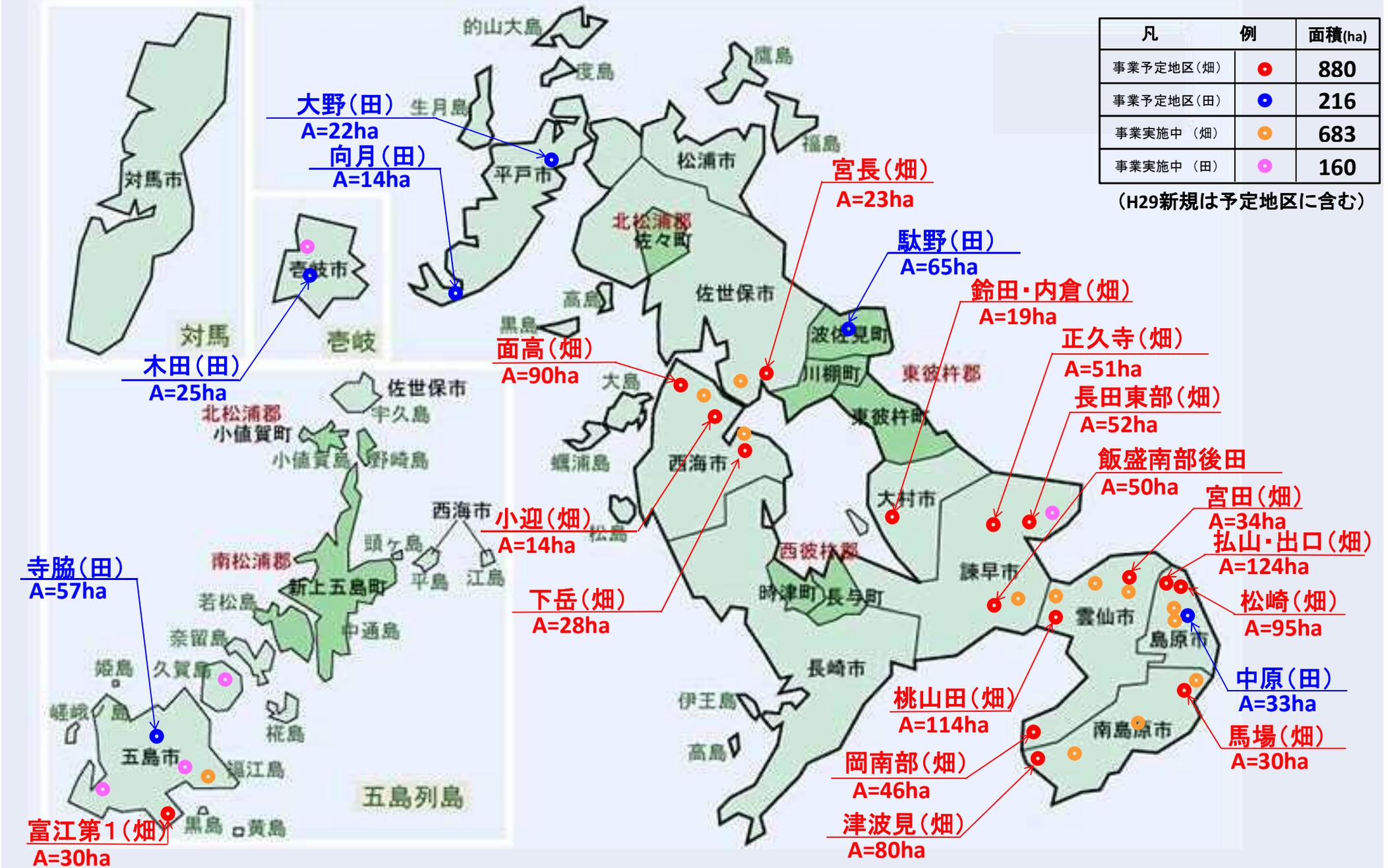
**(園児数 H28:17名)**

### 【地区の小学生生徒数が増加傾向】



# H29~H33 長崎県の農地基盤整備(区画整理)事業

# 予定位置図



凡	例	面積(ha)
事業予定地区(畑)	●	880
事業予定地区(田)	●	216
事業実施中(畑)	●	683
事業実施中(田)	●	160

(H29新規は予定地区に含む)